

# 平成30年度第一回根室市市政モニター会議【記録】

1. 日 時 平成30年10月12日（金）午後6時30分～午後8時00分
2. 場 所 根室市役所 3階 大会議室
3. 出席者 【市政モニター】 7名

【市 側】 9名

市長、総務課長、介護福祉課長、広報広聴主査、広報広聴担当

## 4. 開会挨拶（市長）

本日は、平成30年度、第1回市政モニター会議に、夜間の開催にも関わらずご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より、市政の推進に対しまして、格別なるご理解とご協力をいただいておりますことに対し、この場をお借りし、お礼申し上げます。

この会議は、広く市民皆様のご意見やご提言をいただくため、毎年開催しているもので、本年度は15名の方々をモニターとして委嘱させていただきました。今年度末までの委嘱期間内、数回の会議を開催する予定でありますので、よろしく願いいたします。

さて、今回の市政モニター会議では、「防災」と「高齢者福祉」の2点をテーマに設定させていただきました。この二つのテーマにつきましても、市といたしましても、今後さらに力をいれて取り組んでいかななくてはならないテーマであると認識しております。

「防災」についてであります。災害に強いまちづくりは、先の選挙において、私が強く訴えてきた政策のひとつであり、先月9月6日には胆振東部地震による大規模な停電の発生もありました。今回の経験を踏まえ、市といたしましても課題の整理と検証を進め、災害対応の強化を図ってまいりたいと考えているところであります。

また「高齢者福祉」につきましては、日本全体が本格的な人口減少時代を迎え、我がまちにおきましても、少子高齢化は進んでおります。先月9月末の高齢化率は33.3%であり、さらに高齢化が進めば、今後、様々な問題が生じることが懸念されます。これからは、市民と行政が共に考え、知恵を出し合い、地域全体で高齢者を支えていく社会を作っていくことが重要であります。

本会議は、まちづくりの主役である市民の皆さんの声を市政に反映することが目的であります。出された意見・提言等につきましては、今後の市政運営の参考とさせていただきますので、モニターの皆様には、是非とも忌憚のないご意見・ご提言をいただきますよう、お願い申し上げます。開会にあたっての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

（※市長は挨拶後退席）

5. 平成30年度「根室市市政モニター会議」の開催方法について（広報広聴主査）  
※ 資料1により説明
6. 説明（総務部長、介護福祉課長）  
※ 資料2により説明
7. 質疑応答  
特になし
8. 以下、会議詳細

## 【防 災】

### ◎モニター（A）

今回、北海道胆振東部地震による大規模な停電が起きた中で、一番大変だったと感じるのが、情報をうまく受け取ることができなかったことである。私は厚床の街中に住んでいるが、停電時に回っている広報車からの情報が聞こえづらく、内容が不十分であることなどから、情報を受取ることが困難であった。一方、浜松や長節などから流れる防災無線からの情報はよく聞こえるという話を知人から聞いたが、厚床も広報車だけでなく情報無線を設置し情報発信をすることはできないだろうか。

### ○総務課長

防災行政無線は、当初の考えでは沿岸地域で作業している人に対し、津波の危険情報を伝達するためのものであった。そのことから、沿岸地域一体に聞こえる場所のみに設置されており、内陸部の住民に聞こえるように設置していないというのが実態である。

また、防災無線は市役所に設置されているため、市役所の近隣住民には聞こえるようになっているが、屋内にいる全員に聞こえるわけではない。歯舞漁協では戸別受信機というものを組合員向けに導入しており、それと連動して屋内で防災無線と同じ情報を受け取ることができる。

いずれにせよ、内陸部まで聞こえるように網羅していないのが現状である。

### ◎モニター（A）

衛星携帯電話については、所有していても地域で運用できる者がおらず、現状として活用できる状態ではない。

### ○総務課長

衛星携帯電話については、避難所と言われるところには配備している。全ての場所で実施しているわけではないが、地区ごとの防災訓練、防災講座の中で要望があれば教えている。

### ◎モニター（A）

衛星携帯電話の使用方法についての講座など、使いこなせるようご協力願いたい。

### ◎モニター（B）

行政が警報を出しても、市民は割と安心していて、避難が遅れて取り返しがつかなくなるということが懸念される。市民は行政に頼りきるのではなく、まずは自分の身は自分で守ること、災害に備えることが必要で、その防災意識を啓発していかなければ市が様々な施策を講じても有効に活用できないと思う。

今回の停電で、家に備えてあった懐中電灯をいざ使おうとしたところ、電池がなくなっていて使えなくなっており、自分も含めて日頃の防災意識が薄いということをもって実感した。

また、市役所の非常電源の備蓄が、ほとんどの市町村が備わっていないというニュースを今日新聞で見た。行政も用意不足で、いざという時の備えが十分ではない状態になっているため、市役所も防災・減災に対する意識を高め、対応にあたるべきだと思う。

#### ◎モニター（C）

宝林町・月岡町・西浜町は柏陵中学校が避難場所となっているが、私の住む場所は柏陵中学校に行く途中で、一度坂を下って海拔の低い位置を通過する必要がある。柏陵中学校に行く間に津波に巻き込まれる可能性はないのか疑問だ。避難場所について再考していただきたい。

#### ○総務課長

市では国の指定により、「避難場所」と「避難所」を分けている。地震・津波が来た際に真っ先に逃げる場所が「避難場所」、一定期間生活を送る場所は「避難所」という分け方になっている。

特に避難所といわれる場所については、耐震化がされているかどうかなど様々な制約があり、今ある施設の中で対応できる施設を指定避難所として設定している。

市が設定した地区ごとの避難場所及び避難所は、例に挙げていただいた事例のように住む場所によって適した避難所・避難場所が変わってくるため、ひとつの目安としてとらえていただきたい。

#### ◎モニター（C）

現状として、海拔の高い位置に住む人は、避難所や避難場所に行かず家にとどまるという選択をしている人が多いため、改めて周知すべきだと思う。

#### ◎モニター（D）

私は介護関係の仕事に携わっているが、在宅介護をしていて亡くなった方のご家族から、未使用のおむつ、ドライシャンプー、手袋などの寄付をいただくことがある。しかし、備蓄できる場所に限りがあるので、たまってくると結局かさばってしまうため捨てているのが実態である。備蓄する場所があれば寄付をしたいという声をよく聞くので、市として何か対応できることはないか。

また、避難所については高齢者にとって洋式トイレは必須なので、洋式トイレがない避難所も多い。洋式トイレのある避難所をしっかりと周知する必要があると思う。

#### ◎モニター（E）

今回の停電で一時、全市的に断水するというデマが流れた。市として、デマ等を打ち消す手段はないのか。

◎モニター（C）

デマの出所はわかっているのか。

◎モニター（A）

出所はわからないのだろう。しかし、人々の不安であつという間にデマは蔓延する。それに対して市はどのように対処していくのかはひとつの課題だと思う。本当に断水になった場合は、市としてどのような広報をするのか。

○課長

本当に断水した場合は、広報車で回るなどして周知をする。

◎モニター（A）

不安になり必要なくても余分に購入してしまうことは人の心理であることも承知の上だが、コンビニやスーパーなどどこに行っても物が売り切れで、買えなかった人のことを考えると困ったものだと思う。そういう意味でも市民への事前周知は必要である。

◎モニター（B）

災害が起こるということ、デマが出て災害用品が品薄になることなどを念頭に置くことも必要であり、いざという時に物が無い、備えていても、実際に災害が起きた際には使えなくなっていたなどの事態も起こりうるだろう。いずれにしても、実際に災害が起こった際に本当に備えがどのように役に立つのかが想像できない。

◎モニター（E）

混乱は避けて通れないことがわかったうえで、事前に市民に対する意識啓発を図ると共に、デマが出た際には市は早めに正しい情報発信をすることが重要だ。

◎モニター（B）

避難所については、公的な施設ばかり利用しては、現状のような隔たった避難所ばかりになってしまうため、例えば、民間の施設を借りたり、法人の施設などを有効に利用するなど、民間の施設も有効利用したほうが良いと考える。規則ある中で決めていることで、様々な課題や問題が発生することも承知の上だが、補助的であってもよいので民間施設の活用を検討してはどうか。

◎モニター（C）

行ったことがないためわからないが、知人に聞く話によると、関係機関で行っている総合防災訓練は、毎回同じ内容だと聞いている。一般市民を巻き込んでいないことが伺えることから、防災訓練のあり方についてを一度、考えたほうが良いのではないか。

○総務課長

自衛隊や消防などいざという時に防災関連機関が災害時にスムーズに連携を図れるようにという趣旨で行っているが、市民もそこに参加することは可能である。場所の関係上花咲港地区の住民は特に参加していただいております、一般市民が多く参加しているわけではないが、全町会に対し参加を呼びかける周知を行っている。しかしながら、多くの方が参加しやすいような形になっていないということも事実としてあると思う。

◎モニター（C）

市民は参加できないものだと思っていた。

◎モニター（A）

今回のような災害が起こる可能性があるのだから、市民レベルの訓練も行っていいと感じる。

◎モニター（E）

私は職業上、観光客の対応をすることがあるが、その際に避難場所について聞かれることがある。市で発行しているハザードマップを職場に掲示したり、観光客に渡すなどしているが、避難所などが観光客に周知できていないことも課題ではないか。

◎モニター（F）

防災においては行政・町会ともに積極的に行っていると思うが、行政だけに頼ることはできないと感じる。民間の力も出てきていると感じており、避難所ではマッサージの人が来てボランティア活動するなどの事例もある。行政と民間がしっかりと連携しながら有事の際には動く必要があると感じている。

## 【高齢者福祉】

◎モニター（D）

介護現場では若い労働力・担い手不足に頭を悩ませており、通年介護職は募集しているが応募が無いのが現状だ。十勝地方などでは、外国人労働者枠を積極的に活用している法人が増えていると聞いている。根室市でも外国人労働者が水産加工場で働いていることは知っているが、介護の現場でも積極的にとりいれるべきだと思う。とにかく労働力が欲しいので、そうした情報があれば、ぜひ情報提供していただきたい。

◎モニター（C）

高齢者は定年後も元気な人は元気だから、そういった高齢者を労働力として活用していくのも必要ではないか。

◎モニター（A）

地域全体が高齢化しており、今車に乗っている人でもこれからは免許を返納する人も増えてくると思う。病院については、医療機関でバスを運行したり、それぞれにバス券を利用するなどしているが、定期的買い物などもしなくてはならなく、移動手段としてタクシーチケットについても検討してはよいのではないか。

市街地の街中などは地域での助け合いが可能かもしれないが、厚床のような隣近所が離れている場合は助け合いが難しいため、地域性を考慮することも必要だと思う。

◎モニター（B）

地域や家族で高齢者を支えようという「地域包括ケアシステム」については理想的だとは思いますが、親としては子供に面倒を見てもらいながら暮らすのが嫌で、子どももまた親の面倒を見ながら暮らすのが煩わしいという、親も子も求めた結果がこの現状であるため、それを昔のような状態に戻すのは大変だ。制度的にできたとしても、気持ちが付いていくのが難しいと思う。災害と同じで、自分がそういう立場におかれなければ、認識しないのが現状だと思う。

◎モニター（A）

厚床でも子どもが高齢者への声かけをするなど、地域包括の取り組みを最近はじめています。若い人が高齢者をどのように支えるのか。もっと早い段階で考えることが出来ていればよかったのかなと思う。支え合うというよりみんな、支えて欲しいものだ。お金もかかるし、若者も流出しており、今後ますます厳しくなるが、町会としても、敬老会やレクリエーションの開催をはじめ高齢者への声掛けなど地域でできることは現在もやっている。

◎モニター（B）

名前も年齢も公開できないという個人情報の制約が悩ましい。個人情報を知らせたくない方も実際におり、高齢者を地域で支えるうえで、個人情報保護の観点の一つの大きな問題点だと感じている。

◎モニター（E）

実際に起こったのが、お年寄りが徘徊して私の家に来た。その方は知っていたが、他人の家のために入ることができず、その後警察や民生委員にも入ってもらって対応した。安否確認は家の外からでも、電気がついていかなど、なんとなくは確認できるが、それ以上の深入りは難しいのではないかと感じている。

◎モニター（B）

見守りだと言いながら、他人の家に入っていくことは難しい。

◎モニター（D）

私には高校生の子供がいるが、以前妻が夕飯を作らなかったときに、子どもが自分から夕飯の支度をしたことがあった。何が言いたいのかというと、冬場に市役所職員や高齢者事業団の方が高齢者のお宅の除雪サービスをしてくれているが、人手が不足している。そうした際に、体力がある高校生などの若者が近所の高齢者宅の除雪を手伝うようなことはできないだろうか。

○介護福祉課長

除雪については、高齢者事業団のほか、すずらん学園や希望の家にも委託しているが、人手が足りなく全体を支えきれておらず、対応できない部分は市の職員が対応している。高校生などが手伝ってくれるとこちらとしてもありがたいと思う。この前の停電の時も、市職員で団地の高齢

者宅に水を運んだが、そういったときも高校生が手伝ってくればありがたかったと思う。

◎モニター

夕張などは野球部の高校生が部活の一環として、そうした取り組みをしていると聞いたことがある。

◎モニター（E）

医療・入院の受け入れ体制について、なかなか入ることができないという状況があるという話を聞いているが、実際現状はどうなっているのか伺いたい。

○介護福祉課長

実際に入所するのは難しい状態である。施設が足りないと感じている。全部の施設をあわせると待機者はおよそ100人いる。同じ人が別の施設に申し込んでいる場合があるので、実数は減るが、それを考慮しても50人は待機者がいる。施設入所が必要な人は希望すれば、すぐに施設に入ることができるのが本来であると思う。

○広報広聴主査

次回以降、今日話していただいた内容から、提言書を作っていくための提言を次回までに考えていただき、次回の会議で発表していただきたい。

## 9. 閉 会